

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1270300740		
法人名	社会福祉法人うぐいす会		
事業所名	稲毛グループホーム		
所在地	〒263-0051 千葉県千葉市稲毛区園王町153-1 (電話) 043-207-6556		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(19年12月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤11人, 非常勤7人, 常勤換算9.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火構造		
	4階建ての	3階 ~	4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他	食費42,000+水光熱費19,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)		有りの場合 償却の有無	利用料金の滞納分の充当や退居時の居室原状回復費用等の為預かり、退居時実費精算の上返却。
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲毛病院 石郷岡病院 医療法人社団貴和会(訪問歯科)
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR総武線稲毛駅からバスでおよそ7分。園生小学校のすぐ近くに位置する、街の中のホームである。建物は4階建ての鉄骨造り。通所介護や居宅介護支援、訪問介護事業所も同じビル内に併設されており、グループホームは3・4階部分にある。大きな家の一家族という印象で、安心感が感じられる。入居者は、デイサービスとの合同行事に参加したり、デイの車を利用して全員でドライブに出かけるなど、大家族ならではの楽しみ方で、日々を過ごしている。今後ますます、地域の高齢者の拠り所となっていくことが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	洗剤類の置き場所については、保管場所や管理方法を工夫するようにした。職員研修は、年間計画を立てたものの、全職員が力量に応じた研修を段階的に受講できているとはいえない。地域交流は、運営推進会議等を通じて連携が深まりつつあり、今後が期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は職員と話し合いながら自己評価を作成している。地域での役割をどのような形で実現していくかについても、考える機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2~3ヶ月に1回の割合で、不定期に開催されている。参加メンバーはホーム長、入居者、入居者家族、あんしんケアセンター職員、小仲台自治会長などである。話し合いの内容は、主としてホームの紹介や現状報告などである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	契約書に相談窓口が明記されている。またホーム内に意見箱を設置したり、家族の面会時に職員が気さくに声かけして、話をしやすい雰囲気作りに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの交番とは連携を取るようになっている。市の敬老会に参加したり、近隣住民と散歩の折に挨拶を交わしたりして、関係作りに努めている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に職員全員で作った理念が、玄関、リビングなどに掲げられている。ホームパンフレットや説明文書にも記載があるとさらに良いと思われる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝礼時に職員全員で読みあげ、初心を忘れないよう心がけている。		
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後2年が経過し、挨拶を交わしたり、通りがかりに花の植え方を教えてもらったりしている。ホームの行事に誘ったり、併設のデイサービスを利用してもらうなど、日常的な付き合いが増えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で指摘された周辺施設への働きかけは、市町村と敬老会を開催したり、消防や警察との連携を密にするなどして、改善に向けて取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの祭りや行事にひっかけて運営推進会議を開き、職員や入居者の紹介、ホームの説明などを行ってきた。しかし参加者が少なく、サービスの向上に活かすほどの十分な意見の聴取ができていない。		行政、民生委員、町内会などから幅広い参加者を募るとともに、会議の場で積極的な意見が出るような工夫が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村事業の受託はないが、敬老会を開催したり、福祉事務所の職員に相談しアドバイスをもらったり、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動は広報誌に掲載する。居室担当が中心になって日ごろの様子や金銭管理状況を家族に報告している。面会時や電話連絡でも、こまめな報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は説明文書に明記、ホーム内に意見箱も設置している。意見・苦情は運営推進会議の場で内容を外部へも公表している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員は採用内定時からホームにボランティアに来るなどして、馴染むようにしている。また、新人職員には必ずベテラン職員がついて、トレーニングを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画と実施記録が残されているが、規定にある年4回の研修を受けていない職員もいる。		全職員が経験やスキルに応じて、必要な研修を段階的に受講できるようにすることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の人を支援する専門職千葉連絡会等の集まりの情報を職員に提供し、交流の機会を持つよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みの段階で、家族と相談しながら見学、体験入所、デイサービスの利用などを促し、徐々に馴染めるように気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花の名前や育て方、縫い物、食事の作り方、畑仕事など、経験豊かな入居者から職員は教えられることが多く、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ホーム独自のアセスメントシートに、入居者の思いや意向について家族に記入してもらう。日々の生活でわかってきたことは随時ケース記録に書き込み、職員で情報共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者には担当職員が1名つき、計画作成担当者は、担当職員からの情報や家族の意見などを踏まえ、介護計画を作成している。統一してほしいケアは、担当職員全員に伝え、実践している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々の状態の変化などは、毎日の申し送りや連絡ノートで伝えられている。介護計画はおよそ3ヶ月に1回、見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の社会福祉法人は、通所・居宅介護支援・訪問介護・介護老人保健施設・介護老人福祉施設などを運営しているため、さまざまな機能を利用することができる。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医、ホームの協力病院どちらで受診することもできる。通院の送迎は原則として家族にお願いしているが、不可能な場合は対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体法人が特別養護老人ホームを運営しているため、ホームでの生活が難しくなったら、そちらを紹介している。ホームでの看取りについては、個別の状態に応じてその都度検討する。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護、羞恥心への配慮、プライベートへの立ち入り方など、マニュアルを作成して、職員間で方針を統一している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前には体操や歌、午後は風呂など、おおまかなスケジュールはあるが、基本的には個々に、思い思いに過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを中心に献立を決め、皆で食材の買出しに出かけている。入居者と一緒に食事を作ったりしながら、楽しく食事ができるよう心がけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・火・水・金・土で1日4～5名ずつ提供し、チェック表を作り、皆がまんべんなく入浴できるよう配慮している。入浴は職員と1対1でゆっくりと会話できるため、楽しみにしている入居者が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣り、絵を描く、縫い物、編み物、モップかけ、買物の荷物運びなど、男性入居者も女性入居者もそれぞれ役割や楽しみごとを持ち、生活している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は近くの神社に散歩に出かけたり、食材の買出しにでかけたりする。デイサービスの車を利用し、全員でドライブへ行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設のデイサービスと共用の正面入口は8:30～17:30まで開放し、ホーム部分の3・4階の出入口は両ユニットとも施錠していない。エレベーターのみ押しボタンを簡易なプレートで隠し、入居者がどこかへ行ってしまおうのを防いでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震、火事などについてはマニュアルを作成し、定期的な消防訓練を行っている。スプリンクラー、自動通報装置も完備し、備蓄食料や水なども備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは入居者の希望を尊重しているが、野菜を多くするなど栄養バランスに気を配っている。水分もしっかり補給している。乳製品を多く摂取し、便秘対策としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度や温度管理は良好で、居心地の良い家庭的な共用空間となっている。リビング以外にも、日当たりの良い廊下の片隅にソファが置かれ、入居者の憩いの場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが馴染みの品を持ち込み、その人らしい居室作りがなされている。		